

## 推薦のことは

激動の鎌倉時代初頭に聖なる造形を追い求めた  
仏師快慶の全貌が明らかに

### 快慶研究を行う上で欠くべからざる大著

日本では、仏像などの彫刻類を制作した工人を仏師と呼ぶ。仏師と言え、近年は運慶が注目されているが、ほぼ同時期に活躍した快慶の存在も無視することは出来ない。快慶は、鎌倉初頭期の重要な造仏事業に参加し、また中世以前の仏師の中では格段の数の造像銘記を伴う作例を遺し、さらに一般に安阿弥様と呼ばれる調和の整った阿弥陀如来立像の様式を創り上げ、後世に大きな影響を与えたからである。

それ故、快慶は早くから研究の対象にされてきたが、特に一九六一年に出版された毛利久氏の『仏師快慶論』は重要である。ただ、この著作が出てからすでに六十年以上が経ち、この間快慶作品や関連作品の発見が相次ぎ、改めて彼の事績を整理し、総括する書籍の登場が待たれていた。

その待望の一書と言える本書は、二〇一七年に奈良国立博物館で開催された快慶展の出品作品を中心に、造像銘記と作風から快慶作と現在認められる作品を全て収録し、これに加えて快慶との関連性が考えられる参考作品を可能な限り収録したものである。作品や造像銘記などが鮮明なカラー写真を併記紹介され、さらにX線CTスキャン画像や重要関連史料の収録も行われ、快慶に関わる基礎データが完備されている点は特筆される。また、作品解説の精度も高く、収録された四編の論文も重要な参考文献である。本書は、疑いもなく今後の快慶研究を進める上で欠かすことのない出来な大著であり、日本美術史のみならず日本史学や宗教学の分野の研究者にとってもきわめて有益な著書と言える。

(根立研介 京都大学名誉教授・公益財団法人美術院理事長)

### 快慶の造形とその軌跡を辿る

仏師快慶が生み出す仏は、格調高き実在感を身に纏う。安阿弥様と呼ばれる端厳美麗な造形表現は、時空を超えて人の心を魅了する。

文献史学者が、美の特徴や価値を云々することは、できることなら控えたい。だが、快慶の造形美がなぜ生まれたのかを、時代を背景に考える誘惑には抗えない。

快慶の生没年は不明だが、源平合戦から承久の乱ごろまで、約四十年に亘る活動が確認できる。時は日本全土におよぶ動乱と復興の時代。若き快慶は、殺戮が繰り返され、人心荒廃する京都や奈良そして地方の惨状を目の当たりにしたはずだ。やがて快慶は東大寺を復興した重源に師事して「安阿弥陀仏」と称し、念仏同行衆となった。仏師として、念仏者として、快慶は救いを求める人々に向き合っただろう。そして造仏に結縁した貴顕衆庶の思いを受け止め、数多くの端厳美麗な仏を造立した。安阿弥様は乱世が生み出した「泥中の蓮」。快慶作品の気高さは、動乱が日本社会に与えた傷の深さと響き合っている、と思う。

快慶作品のすべてを高精細写真で収録する本書は、安阿弥様の造形美を余すところなく伝えてくれる。くわえて全銘文や像内納入品を紹介しているのは文献史学者にはありがたい配慮だ。解説編では、作品の特徴とともに、豊富な史料や最新の研究に基づいて、造像の背景を詳細に叙述している。本書を紐解いて、時代が求めた美を形にした快慶の軌跡を辿り、もって焦土からの復興に生きた人々に思いを馳せたい。

(横内裕人 京都府立大学教授)

## 奈良国立博物館編

# 仏師快慶の研究

2022年  
冬刊行  
予定

現存するすべての快慶作品、

および関連作品を

迫力の大判カラーで掲載

快慶に関わる基礎資料を

網羅した

快慶研究の決定版

高精細カラー画像、

X線CTスキャン画像など

最新鋭の機器による

初公開情報が満載



B4判上製函入・五六〇頁  
定価・七七、〇〇〇円(税込)

発行: 思文閣出版		〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009 https://www.shibunkaku.co.jp/ E-mail: pub@shibunkaku.co.jp (京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	仏師快慶の研究 定価 77,000円(税10%込)	ISBN 978-4-7842-1969-8
お名前		tel	
		e-mail	
ご住所		〒	
送本方法	代引(書籍代+消費税と現品を引き換えにお支払い、送料・代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎		



〔予定内容〕

図版

在銘作品

- 1 弥勒菩薩像（アメリカ ポストン美術館）
- 2 重要文化財 弥勒菩薩像（京都 醍醐寺）
- 3 重要文化財 阿弥陀如来像（京都 遣迎院）
- 4 重要文化財 大日如来像（滋賀 石山寺）
- 5 国宝 阿弥陀如来および両脇侍像（兵庫 浄土寺）
- 6 重要文化財 四天王像（和歌山 金剛峯寺）
- 7 重要文化財 執金剛神像・深沙大将像（和歌山 金剛峯寺）
- 8 重要文化財 孔雀明王像（和歌山 金剛峯寺）
- 9 重要文化財 阿弥陀如来像（兵庫 浄土寺）
- 10 重要文化財 菩薩面（兵庫 浄土寺）
- 11 重要文化財 阿弥陀如来像（広島 耕三寺）
- 12 菩薩像（静岡 伊豆山浜生協会）
- 13 国宝 僧形八幡神像（奈良 東大寺）
- 14 重要文化財 如来像 頭部（三重 新大仏寺）  
如来像 手（アメリカ ハーバード大学美術館）  
菩薩像 耳（個人）
- 15 重要文化財 阿弥陀如来像（奈良 東大寺）
- 16 重要文化財 不動明王像（京都 醍醐寺）
- 17 国宝 金剛力士像（奈良 東大寺）
- 18 国宝 文殊菩薩および侍者像（奈良 安倍文殊院）
- 19 大日如来像（東京芸術大学）
- 20 阿弥陀如来像（栃木 真教寺）
- 21 重要文化財 阿弥陀如来像（京都 松尾寺）
- 22 重要文化財 阿弥陀如来像（大阪 八葉蓮華寺）
- 23 重要文化財 阿弥陀如来像（奈良 安養寺）
- 24 重要文化財 阿弥陀如来像（奈良 西方寺）
- 25 重要文化財 阿弥陀如来像（和歌山 遍照光院）
- 26 阿弥陀如来像（京都 悲田院）
- 27 地藏菩薩像（京都 如意寺）
- 28 地藏菩薩像（アメリカ メトロポリタン美術館）
- 29 重要文化財 執金剛神像・深沙大将像（京都 金剛院）
- 30 阿弥陀如来像（大阪 大圓寺）
- 31 重要文化財 地藏菩薩像（奈良 東大寺）
- 32 重要文化財 阿弥陀如来像（岡山 東壽院）
- 33 重要文化財 地藏菩薩像（大阪 藤田美術館）
- 34 重要文化財 十大弟子像（京都 大報恩寺）
- 35 重要文化財 阿弥陀如来像（奈良 光林寺）
- 36 重要文化財 阿弥陀如来および両脇侍像（和歌山 光臺院）
- 37 釈迦如来像（アメリカ キンベル美術館）

迫力の全六十三点

— 在銘作品四十二点  
— 重要作品二十一点

近赤外線・X線  
CTスキャン画像等  
を初公開



阿弥陀如来像（兵庫 浄土寺）

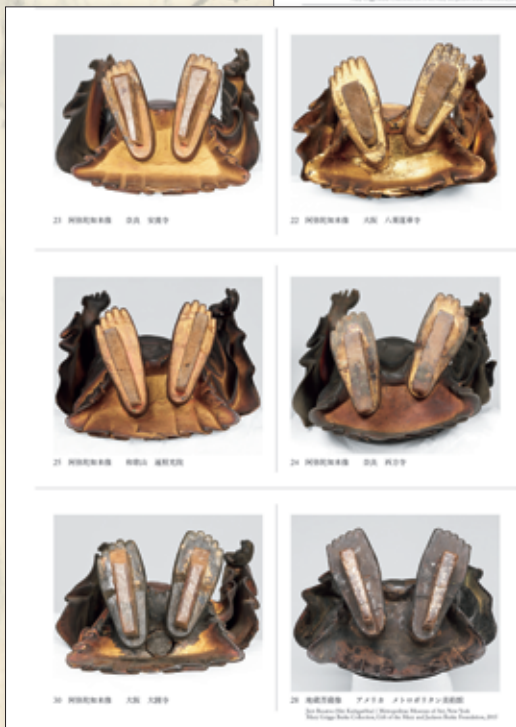


文殊菩薩像（奈良 安倍文殊院）



阿弥陀如来像（奈良 西方寺）

正面・背面・  
側面ほか  
さまざまな  
角度からの  
画像を掲載



像底・銘文集成、  
論文、作品解説など  
充実の内容

- 38 阿弥陀如来像（三重 安楽寺）
  - 39 重要文化財 阿弥陀如来像（滋賀 圓常寺）
  - 40 重要文化財 阿弥陀如来像（京都 大行寺）
  - 41 重要文化財 阿弥陀如来像（奈良 西方院）
  - 42 重要文化財 金剛薩埵像（京都 隨心院）
  - 重要作品
  - 43 重要文化財 千手観音像（京都 清水寺）
  - 44 菩薩像（京都 勝龍寺）
  - 45 菩薩像（アメリカ フリーア美術館）
  - 46 阿弥陀如来像（京都 知恩寺）
  - 47 阿弥陀如来像（大阪 藤田美術館）
  - 48 観音菩薩像・勢至菩薩像（栃木 地藏院）
  - 49 観音菩薩像（個人）
  - 50 重要文化財 金剛力士像（京都 金剛院）
  - 51 重要文化財 善導大師像（奈良 来迎寺）
  - 52 不動明王像（アメリカ メトロポリタン美術館）
  - 53 重要文化財 兜跋毘沙門天像（京都 青蓮院）
  - 54 重要文化財 阿弥陀如来像（浄土宗）
  - 55 重要文化財 阿弥陀如来像（京都 正法寺）
  - 56 阿弥陀如来像（石川 尾添区）
  - 57 重要文化財 西大門勅額八天王像（奈良 東大寺）
  - 58 重要文化財 不動明王像（京都 正壽院）
  - 59 重要文化財 聖観音像（奈良 東大寺）
  - 60 菩薩形像（静岡 鉄舟寺）
  - 61 重要文化財 阿弥陀如来像（静岡 新光明寺）
  - 62 重要文化財 阿弥陀如来像（三重 専修寺）
  - 63 重要文化財 阿弥陀如来像（京都 極楽寺）
- 資料**
- 像底・銘文集成  
納入品X線CTスキャン画像  
X線透過画像  
南無阿弥陀仏作善集 影印・翻刻
- 論文**
- 山口隆介「快慶の生涯と「如法」の仏像」  
奥 健夫「快慶と生身信仰」  
三本周作「快慶作品における金属製莊嚴具について  
—— 仏師と金工をめぐる一試論 ——」  
山口隆介「X線CTスキャン調査からみた快慶作品の  
構造とその特色——三尺立像を中心に——」
- 作品解説**  
年表  
主要参考文献